

【3 くにみ学園基本構想にかかるこれまでのワークショップの意見（第5章 保育・教育的要求の整理）とそれらを踏まえた保育・教育計画及び保育・教育施設環境の在り方（案）について】

目指す子どもの姿を実現するために、どんな活動を行っていくのか掘り下げてほしい。

わんぱく＝やんちゃなイメージだが、どのようなことを示しているのか知りたい。

「地域に還元できる」とあるが、具体性が分からないので、求めるなら例示した方がよい。

今は夢を持つ子が少ない、自分で考えられないと感じる。

資料2（P.1）7-1に「提供し・・・」という表現があるが、それは本当に子どもにとって良いことなのか？提供されないとやれない、やらないにつながるのか？子どもの自主性を伸ばすことが重要。

子どもにばかり求めるのではなく、大人もどういう姿勢がつかれるか。大人が求めるのではなく、子どもに寄り添う姿勢が必要。

子どもの願いと大人が願うもののギャップをどうするか？本当の願いを見抜くことが大切。

夢を持つために、小さい頃から色々な経験ができる方が良いか。

自分の気持ちを言葉にできない子もおり、大人のサポートが重要である。

子どもたちから出た意見は、大人とは違う目線であると感じる。エレベーターの設置理由を見ると、低学年の子のためという思いやりを感じる。

水筒持参は低学年だと大変。ランドセルの上に体操着袋を背負い、更に水筒となると歩くものやっとなのである。

子どもたち自身が異学年の交流を望んでおり、大人と同じ意見でよかった。

□持続可能な教育内容にするためには、人的にも物的にも長いスパンで継続できることが重要となるため、やれるやれないの選択をきちんと行い、また、学校と地域の相互作用をもっと柔軟にしなければならない。

□カリキュラムについては、現在 CS 委員会で承認の形となっているが、今後は意見交換の場になればよいと感じる。

□判断力について、今の子どもたちはタブレットで出てきたものが答えになっており、それが本当かどうかについては全く疑わない。

□国見学のテーマ設定を現在学校が行っているが、今後は子どもたち自身がテーマ設定できるようになれば良い。

□これまでのワークショップでたくさんの意見が出てきた中で、今後は取捨選択によって構想の方向性が決まっていく。学校と社会の変化を比較するとどうしても社会の変化の方が大きくなるため、学校の変わらないものを変えるチャンスである。(勇気をもって)

□大人に子どもの頃の夢が叶えられたか問うと、NOの割合が多い。子どもの夢を実現するためには、どれだけの大人が応援できるかが重要である。